

「新たなIT産業論」と イノベーションサイクルについて

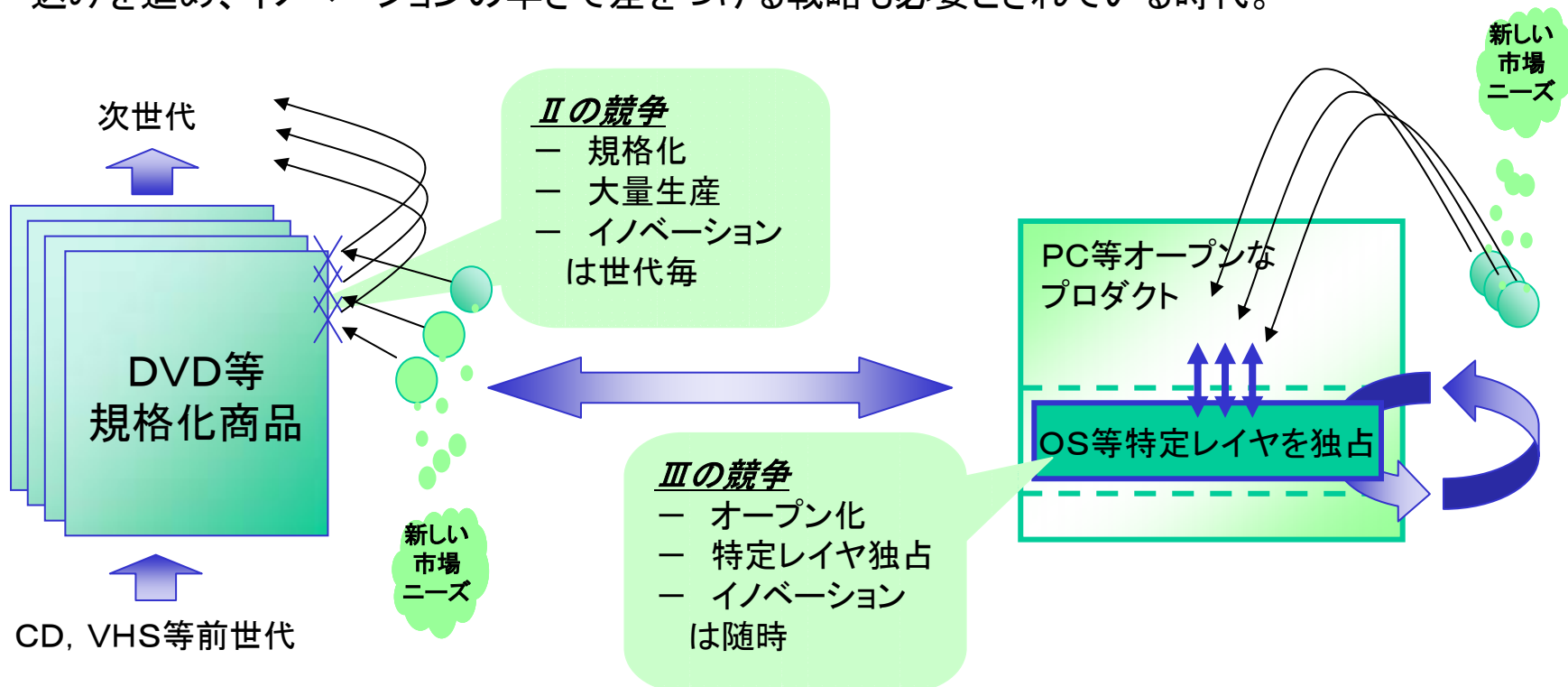
平成17年2月14日
経済産業省 商務情報政策局

■ IT市場の「競争」の比較

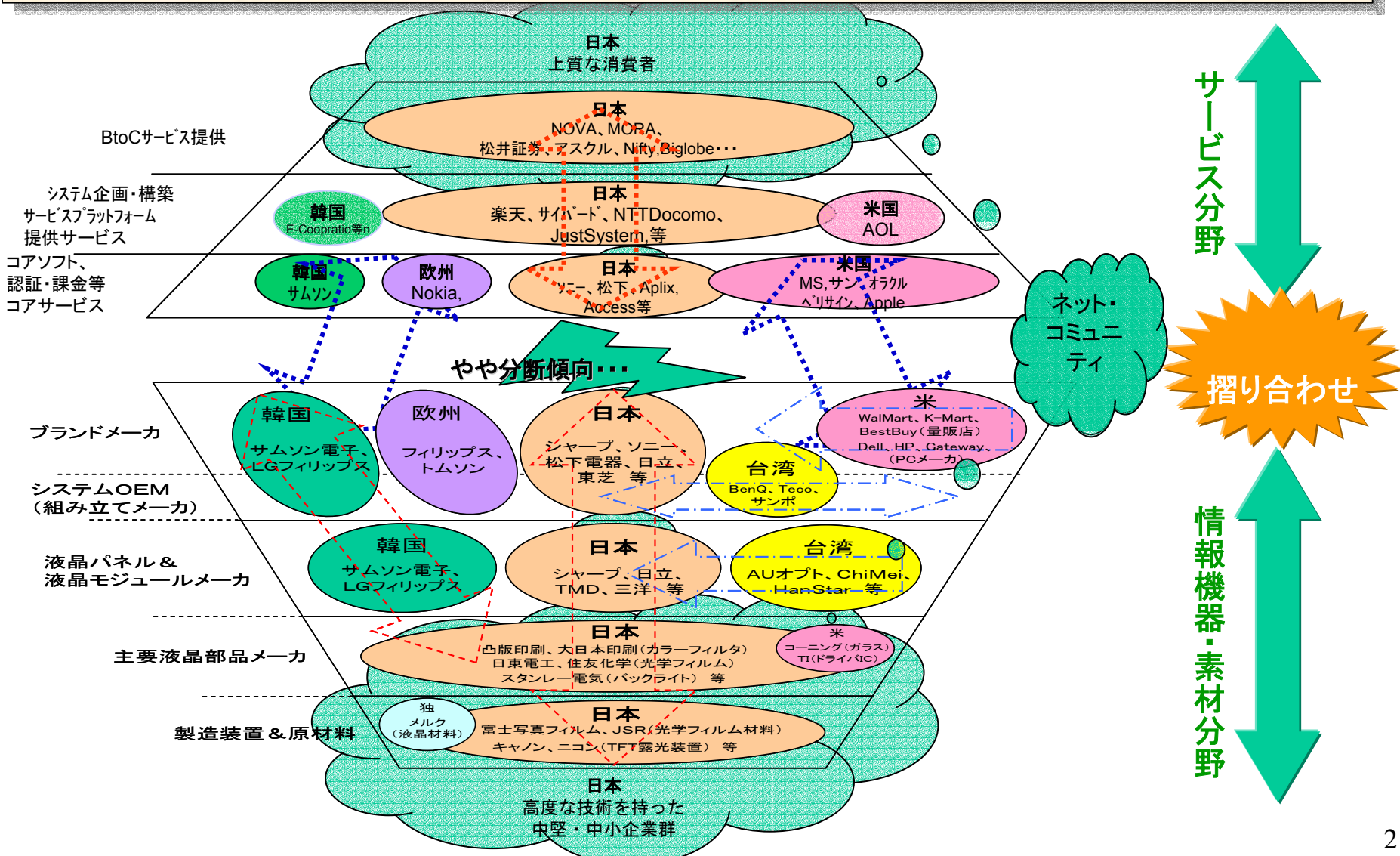
- I 安い労働力の流入を前提に規格化商品の大量生産・大量消費を実現
- II 技術革新とその成果の規格化で独占的競争を展開
- III 知識の囲い込みにより革新性の早さを競うスピード競争を展開

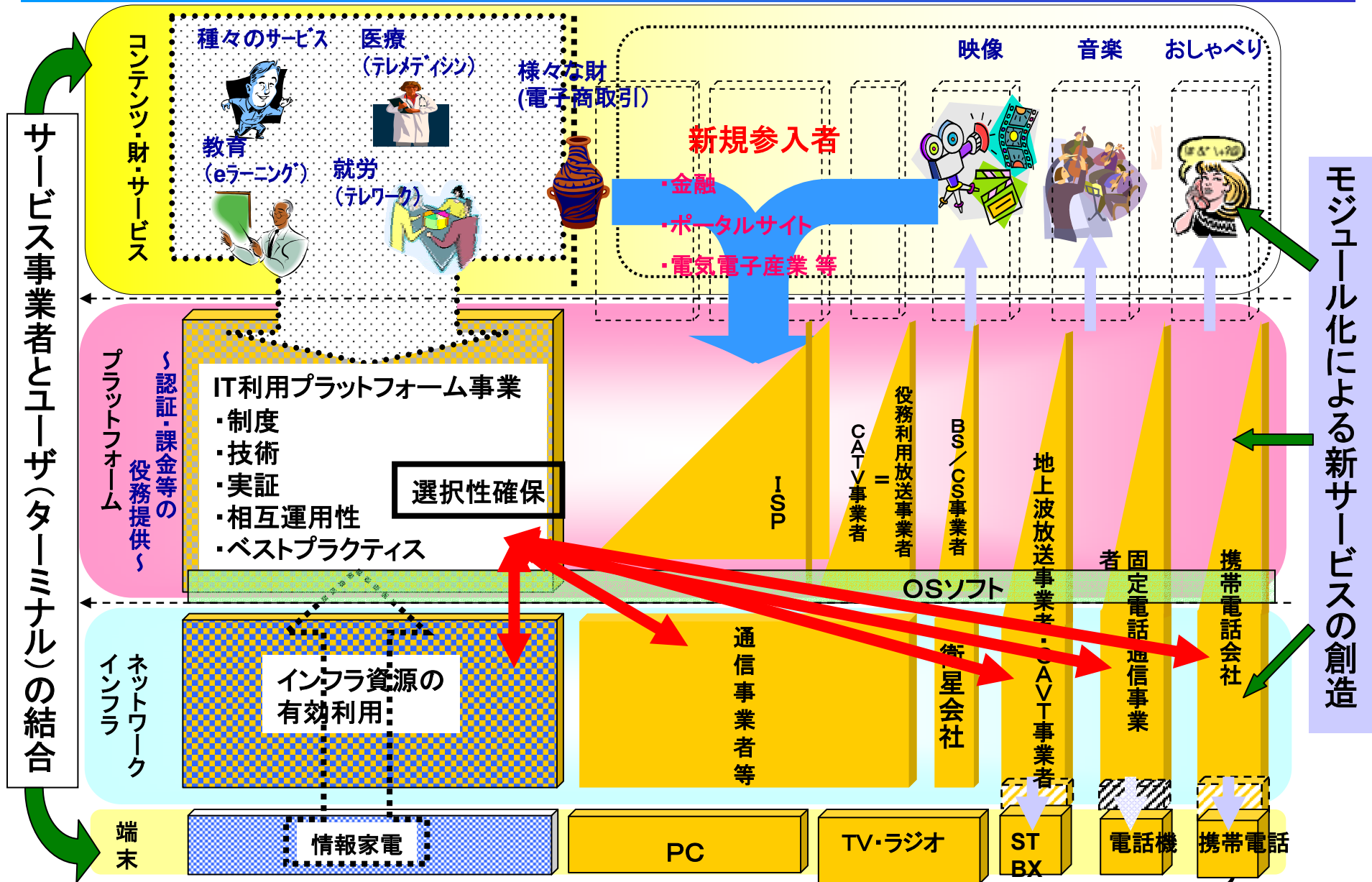
「ものづくり」にとって、「IIの競争への戦略」、すなわち、技術革新の成果を規格によって固定化し、国際的にも量売り抜くことは基本的に必要。

他方で、「IIIの競争への戦略」、すなわち、一部のレイヤーの技術を独占し、その上で提供されるサービスのアプリケーションのレイヤーでは他の事業者等から「智恵」を貰う形で知識の囲い込みを進め、イノベーションの早さで差をつける戦略も必要とされている時代。



「情報経済」時代を支える強靱なIT産業を育成していくためには、情報機器・素材分野などの従来からIT産業と一括されてきた産業の内部での連携はもとより、ソフトウェア、サービス等を含めて、「選択と集中」、「垂直連携・搾り合わせ」、ハイエンドな消費者との連携等によって、「常にイノベーションを続け得る産業」への変貌が必要。





認証・課金・提供システムの占有化 → 囲い込み(垂直統合)によるビジネスの成立